

# JAL愛媛原告を支える会



## ニュース



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会  
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内  
松山市三番町8-10-2 Tel 089-945-4526

# 今年こそ 追い風の予感

伊方町出身原告 二宮斉子

頂きました。美味しかったですよ！”と言っていた田福さんのあの笑顔が忘れられません。今年も何が起るかわかりません。これから自分と与えられた時間を悔い

田福さんとは、私の友人富長君と親しいというご縁もあり、愛媛原告を支える会ができてからの5年間本当にお世話になりました。松山の事務所に伺ったときに、私の母の作った”どーなっつ”を差し入れたことがありました。「私はいつもは甘いものは食べないんだけど、一つ

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。愛媛労連元議長の田福千秋さんの突然の訃報で昨年2015年が幕を閉じ、2016年新しい年がまたやってきました。

## 私 も 応援 します

新日本婦人の会新居浜支部 山崎朱実

## 多くの仲間が 応援しています

えひめ母親大会や集会で支援の物品を売り、壇上から訴えるJALの仲間の姿を見かけると胸が熱くなります。

私も13年前、30年勤めた会社から突然、論旨退職を告げられ頭が真っ白になりました。しかし、幸いにもJMIU労組や新婦人の仲間へ支えられ、裁判に訴えました。地裁では解雇4要件に反するとの勝利判決。二審の高松高裁では勝利和解を勝ち取り、企業はむやみに解雇できないことを示すことができました。

しかし、その後、非正規雇用など労働者の雇用条件はどんどん悪くなり、企業はいつでも好きな時に解雇することができ、労働者は安心して働くことができず

将来の生活設計もままならない状況です。

JALは世界各地で事故を起こし、そして30年前に御巣鷹山事故で520名の犠牲者を出しました。事故原因も明らかにせぬまま、組合つぶしで165名もの優秀なパイロットや客室乗務員を解雇しました。このようなもうけ最優先の航空会社には安心して乗れません。

JALでたたかうみなさん、どんなにかご苦労されていることでしょう。お身体に気をつけて、空の安全と労働者の働く権利のためにがんばってください。多くの仲間が応援しています。

のたいうに過ぎないと思つていきたくもありません。私たちがとりまく情勢も刻一刻と変わってきています。日本航空は昨年12月15日に2016年度からの客室乗務員の正社員採用を発表しました。これはすでに先んじて正社員採用を行つていく全日空の後を追つてのことではあります。これは1994年に客室乗務員契約制度が導入されてから21年間一貫して私たちが訴えてきたことです。

また、昨年11月12日、国際労働機関（ILO）から、労使交渉による解決を要請する第3次勧告がだされました。一歩ずつ、少しずつ前進してまいります。今年、山崎豊子さんのJALをモデルにした小説「沈まぬ太陽」がテレビドラマ化されるそうです。追い風が吹いてきたような気がします。これからもご支援どうぞよろしくお願いたします。



今年も！ 道の駅「八幡浜みなっと」の巨大みかんオブジェ



2015.3.1

JAL・社保庁  
不当解雇撤回  
春を呼ぶ  
うたごえの集い

於:愛大南加ホール

もうひとまわり  
ふたまわり

## 支援の輪拡げて

愛媛原告を支える会事務局長 重見幸春

昨年は、3月に愛媛合唱団と国鉄広島ナッパーズの支援を得て「JAL・社保庁不当解雇撤回 春を呼ぶうたごえの集い」を開催し、勢いのあるスタートが切れました。

毎月の定例宣伝も、原告を先頭に、社保庁不当解雇撤回支援共闘の仲間と元気に取り組むことができました。日航御巣鷹山事故から30年の節目となる8月12日には、JAL松山空港支店への事件解決要請と併せ、総勢38人がにぎやかに空港前宣伝を行いました。うたごえの仲間の応援には元気をもらいました。10月には、塩崎恭久厚労大臣松山事務所や横山博幸衆院議員松山事務所への要請も取り組みました。

中央では、6月に不当労働行為行政訴訟（東京高裁）の画期的な勝利判決が勝ち取られ、11月には、ILOの第3次勧告も出されました。今年こそ、労使間による自主解決が強く求められています。

残念なことは、支える会でも中心的な役割を担われてきた田福千秋さんが急逝されたことです。悔やんでも悔やみきれない思いですが、田福さんの想いを胸に刻んで、引き続き原告らの闘争を支えたいと考えています。

もうひとまわり、ふたまわり、ご支援の輪を拡げていただきますようお願いいたします。

2015.8.12

御巣鷹山事故30年  
松山空港前宣伝



2015.10.16

塩崎厚労大臣要請

於:塩崎恭久事務所前

## 地方の活力、日本の再生。

まずは、あなたの暮らしから。

